

動画編集から
セキュリティ強化まで
やさしく解説

ソフトウェア 活用ブック

- ▶ 自分にあった環境に仕上げる
- ▶ パソコンを最新の状態に保つ
- ▶ セキュリティを高める
- ▶ ネットワークを活用する
- ▶ 映像や音楽を楽しむ
- ▶ オリジナルDVD/CDを作る
- ▶ Webカメラで遊ぶ



※本誌に記載されている画面は、実際のもものと異なる場合があります。

目次

動画編集からセキュリティ強化までやさしく解説 ソフトウェア活用ブック

4



自分にあった環境に仕上げる

- 4 省電力をお手軽変更「Power4Gear eXtreme」
- 6 ウィンドウを観点に整理「MultiFrame」
- 8 PCの状態を表示する「NB Probe」

10



パソコンを最新の状態に保つ

- 10 最新版を自動でチェック「Live Update」
- 11 BIOSを最新版に「WinFlash」

12



セキュリティを高める

- 12 「Norton Internet Security 2007」
- 16 「ASUS Data Security Manager」
- 20 TPMを管理「Infineon Security Platform」
- 22 「ASUS Security Protection Manager for Vista」

24



ネットワークを活用する

- 24 ネット設定を簡単切り替え「Net4Switch」
- 29 無線環境をオン／オフ「Wireless Console 2」

30



映像や音楽を楽しむ

- 30 Webカメラで撮影を楽しめる「LifeFrame2」
- 34 ASUS独自の映像エンジン「Splendid」
- 36 電話帳管理に便利な「PowerForPhone」

38



オリジナル DVD/CDを作る

- 38 CD/DVD作成に便利な「Nero」

46



Webカメラで遊ぶ

- 46 自分の姿をクールに映す「Camera ScreenSaver」
- 47 映像に特殊効果を追加「ASUS Virtual Camera」

● Copyright について

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS) の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

ASUS は、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証も行いません。ASUS の責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の集団などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関わりなく、責任を負いません。本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの利権を侵害する意図はありません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的にのみ提供するものです。また、内容は予告なしに変更されることがあり、この変更について ASUS はいかなる責任も負いません。本書およびハードウェア、ソフトウェアに関する不正確な内容について、ASUS は責任を負いません。

Copyright (C) 2007 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

● 付属ソフトウェアについて

インストールされているアプリケーションは、機種によって異なります。

詳しくはサイトで製品情報をご覧ください。<http://www.asus.co.jp/>

● サービスとサポート

マルチ言語サポートサイトを開設しました。

下のリンクで「Language」から「Japanese」を選択してください。

<http://support.asus.com>

技術的質問、製品登録、ASUS フォーラムへの参加などといったサービスが受けられる「ASUS メンバー」の会員登録をおすすめします。

<http://member.asus.com/login.aspx>



自分にあった 環境に仕上げる

パソコンを長く使っていると自分にとってピッタリな設定や環境が決まってきます。ASUS製のノートパソコンには、その設定や環境作りの手助けをしてくれるソフトが用意されています。省電力の設定を簡単に切り替えたり、ウィンドウを一瞬にして好みの位置に移動、システム環境の表示など、便利なものがそろっています。



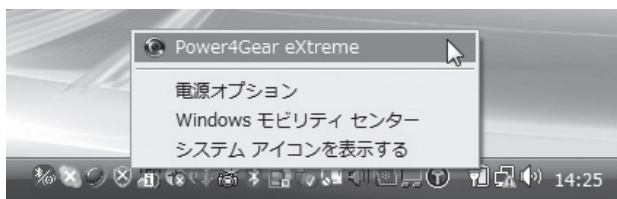
省電力をお手軽変更 「Power4Gear eXtreme」

ノートパソコンのCPUには、バッテリー動作時の省電力性を高めるための仕組みが備わっています。何もしていない場合、または軽い処理で済む場合はCPUのクロックや駆動電圧を下げて消費電力や発熱を抑え、重い処理の時だけCPUをフル回転させます。しかし、こうした仕組みは処理のもたつき、または電力の損耗といった側面を持っています。そこで、CPUの処理パワーと消費電力のバランスを自在に自分で調整できる「Power4Gear eXtreme」の登場となります。CPUの動作クロックだけではなく、一定時間放置した後のスリープに入る時間の調整など、Vista標準の省電力設定を代替するものです。

システムの省電力モードを手動で選択する

パソコンに常駐します。省電力モードは[Fn]キーと[Space]キーのコンビネーションで切り替えできるほか、タスクトレイのバッテリーアイコンをクリックすることでも変更ができます。





具体的な省電力設定の内容をチェックしたい場合は、バッテリーアイコンの上で右クリック→〈Power4Gear eXtreme〉を選択します。

Power4Gear eXtremeの設定は全部で4種類あり、さらにバッテリー駆動時とACアダプタ駆動時で設定が別（つまり合計8種類）になっています。Power4Gear eXtreme専用のボタンが用意されている機種では、ワンタッチでモードの変更が可能です。下段の画面ではあらかじめ用意されているモードの内容変更ができます。輝度やHDDをオフにするタイミングなどを好みの設定に調整可能です。※

ボタンでも
切り替えが可能



オリジナルの設定を作ること可能



各項目の意味

① High Performance

CPUの最高動作クロックが最も高く、ACアダプタ駆動時も動作クロックが下がらない。

② Entertainment

CPUの動作クロックは高めだが、操作しない場合は自動的に動作クロックを下げる。

③ Quiet Office

CPUの動作クロックや液晶輝度を5～6割に抑えることで、省電力性と静音性を追求。

④ Battery Saving

CPUの性能や液晶輝度を半分程度に抑えることでバッテリーの持続時間を延ばすモード。

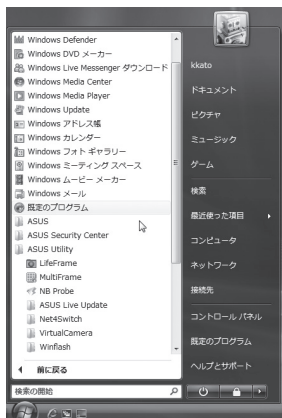
※ Power4Gear eXtreme専用スイッチは、型番によって形状が異なっています。キーボードのFn+SPACEにも同じ機能が割り当てられています。



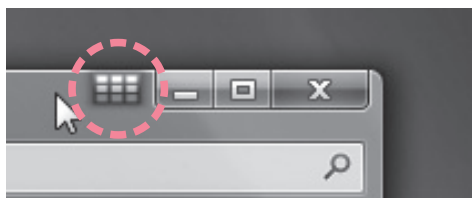
ウィンドウを簡単に整理 「MultiFrame」

複数のウィンドウを開いて作業するときは、適当な場所に次々に開くよりも、ある程度大きさや開く場所といった自分なりのルールを決めて開いていったほうが効率が高くなります。しかし、自分なりのルールを作っても、毎回その通りにウィンドウの再配置するのは面倒です。そこで登場するのが「MultiFrame」。ワンクリックでデスクトップの上下左右辺にぴったりとウィンドウ配置を行える優れモノのユーティリティです。外部VGA端子を利用したデュアルディスプレイ環境にも対応しているため、プロジェクター等を接続してプレゼンするユーザには特にオススメです。なお、このソフトは初期状態ではインストールされていません。利用するには付属のドライバCDよりインストールが必要となります。

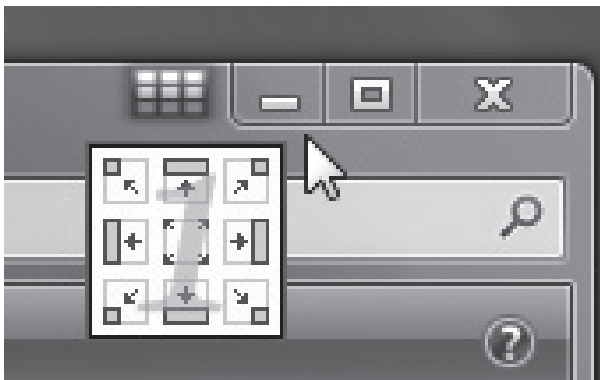
ウィンドウの配置を変更する



MultiFrameは、スタートメニューを開き〈すべてのプログラム〉→〈ASUS Utility〉→〈MultiFrame〉を選択して起動となります。デスクトップ上のショートカットをダブルクリックでも起動できます。



MultiFrameを起動した状態で、ウィンドウの右上部分、3つあるボタンのすぐ左あたりにマウスポインタを移動させると電卓のキーのようなアイコンが出現します。



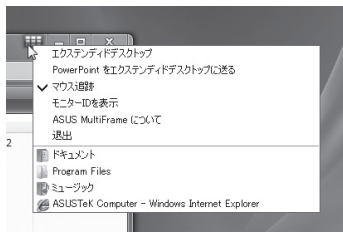
電卓のようなアイコンの上でクリックすると、画像のパレットが出現します。9個のボタンになっており、周囲のボタンはデスクトップの対応する方向にそのウィンドウが移動します(中央のボタンは最大化)。

MultiFrameの利点はウィンドウがどこにどんな大きさで存在しても、一瞬のうちに移動できることです。ウィンドウの大きさは画面の縦または横幅の半分になるので、これで一度整理してしまえば統一感がとりやすくなります。

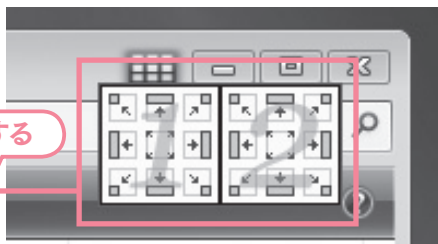
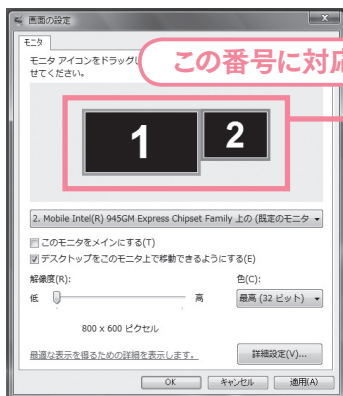


マルチディスプレイ環境で使う

MultiFrameの真価が発揮されるのは、ノートの外部 VGA 出力にディスプレイやプロジェクタを接続して運用するときです。ウィンドウを一方のディスプレイから他のディスプレイに一瞬で移動できる機能は、プレゼンの特に使いこなすと非常に便利です。



電卓状のアイコンの上で右クリックすると、MultiFrameのメニューが出現します。上部のメニューは特に操作する必要はありませんが「退出」より上の項目は現在開いているウィンドウの一覧となっています。このウィンドウ一覧からウィンドウ名を選べると、そのウィンドウが最前面に出てきます。



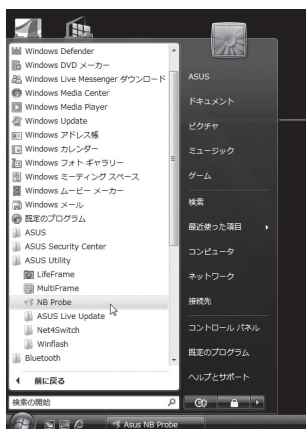
マルチディスプレイ環境時には、電卓状のボタンはこのように表示されます。中央に薄く書いてある1や2といった数字は、ディスプレイIDに対応しています。ディスプレイIDは電卓状アイコンで右クリックか、デスクトップの上で右クリック→〈個人設定〉→〈画面の設定〉で確認できます。



PCの状態を表示する 「NB Probe」

パソコンをヘビーに使うなら、パソコンの状態を常に正しく把握できることが重要になります。特にノートパソコンの場合、各ドライブの空き容量はもちろん、CPUの温度やファンの状態も安全に利用するために把握しておきたいものです。こうした情報を表示するツールはフリーウェアでも多数ありますが、ASUS製ノートパソコンには専用の「NB Probe」が搭載されています。NB Probeは一度起動するとメモリ内に常駐し監視を続けてくれるため、スタートアップに登録しておけば、システムを常に監視させることが可能です。

システムの状態をチェックする



NB Probe は、スタートメニューを開き
<すべてのプログラム>→<ASUS Utility>
→<NB Probe>を選択で起動できます。

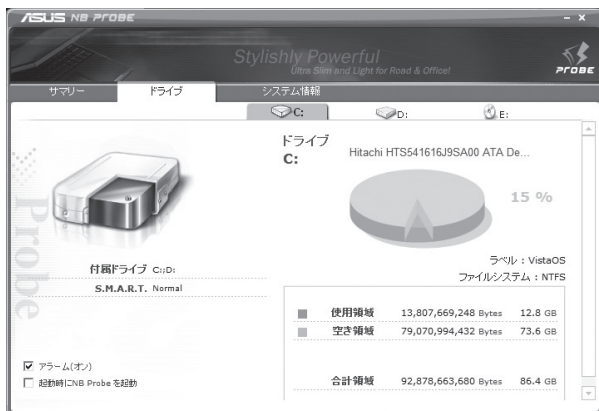
各 項 目 の 意 味

- ① CPU温度**
CPUの温度。Normal なら正常範囲内。
- ② CPUファン**
CPU冷却用ファンの状態。
- ③ CPU速度**
CPUの動作クロック。省電力モードになっている場合は100%より常に小さい。
- ④ HDD名**
HDDの異常を予測する機能「S.M.A.R.T.」の状態。
- ⑤ ドライブ名**
各ドライブの利用状態を%で示す。

NB Probeのウィンドウは上部に〈サマリー〉〈ドライブ〉〈システム情報〉の3つのタブが並んでいます。まずは起動直後に出現する「サマリー」をチェックし、右側の項目すべてに緑のチェックマークがついていることが確認できれば「異常なし」の証拠です。



〈ドライブ〉タブを開くと、HDDや接続されたリムーバブルメディア（USBメモリやメモ리카ード等）の情報がチェックできます。各ドライブの空き容量をチェックできるほか、内蔵HDDは「S.M.A.R.T.」の状態を見ることができます。S.M.A.R.T.が「Normal」以外の状態の場合、HDDが“近々故障する確率が高い”ことを示しています。



〈システム情報〉タブには、搭載されたCPUやチップセットといった情報がチェックできます。どんなハードか思い出せないときに参照してください。

万が一何かの状態が危険域に突入した場合は、〈サマリー〉タブの該当項目にオレンジ色のチェックマークが付きます。NB Probeのウィンドウ左下にある「アラーム」にチェックを入れておけば、異常を検知したときにチャイムを鳴らして教えてくれます。OS起動直後からNB Probeに監視させれば「起動時にNB Probeを起動」にチェックを入れてください。



パソコンを 最新の状態に保つ

メーカーは、不具合の修正や機能の追加、システムの安定の向上など実現する修正プログラムやBIOSファイルを配布することがあります。しかし、問題はその事実をユーザーが知らなければ改善されないことです。ASUS製のノートパソコンには、アップデート情報のお知らせに加え、手軽にBIOSをアップデートできるソフトが備わっています。



最新版を自動でチェック 「Live Update」

パソコンは一度購入したらメンテナンスフリーで使えるという考えは大間違いです。ウィンドウズのアップデートはもちろん、ドライバやアプリを常に最新版に適宜更新していくことが重要です。特にソフトやドライバの更新を行うことでシステムの安定度の向上や機能追加等が期待できます。「Live Update」を活用すれば、ASUSのソフトやドライバの最新版があるか常に監視し、最新版のダウンロードを手助けしてくれます。もちろん、手動でASUSのダウンロードサイトでファイルを確認して別途入手することも可能です。

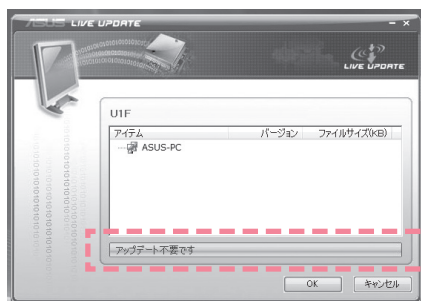
ソフトやドライバを最新版に保つ



「Live Update」はウィンドウズの起動と同時に起動し、タスクトレイに常駐します。このアイコンをダブルクリックします。

このアイコンをダブルクリック

最新の状態であれば、画像のように「アップデート不要です」というメッセージが出ます。なお、システムの整合性でまれに最新ファイルがあっても、ソフトやドライバの種類によっては、Live Updateで対応できない事例も存在するので注意してください。

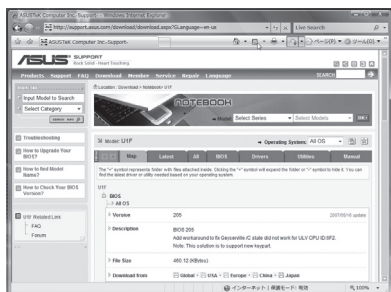




BIOSを最新版に「WinFlash」

起動された直後のパソコンのハードウェアを適切に初期化し、OSの起動を行う小さなプログラムが「BIOS」です。普段は存在を気にする必要のないものですが、時々メーカー側で改良されたBIOSがリリースされます。BIOSの更新理由はさまざまですが、潜在している不具合が解消されることも多いため、なるべく最新版を導入してください。しかし、BIOSの更新は失敗すると、パソコンが起動しなくなってしまう非常にデリケートな作業です。そこで登場するのが、BIOS更新作を確実・簡単に行える「WinFlash」です。なお、作業中に電源が落ちると失敗してしまうため、利用時には必ずACアダプタを接続してください。

最新BIOSに更新する

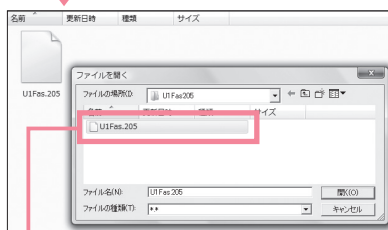
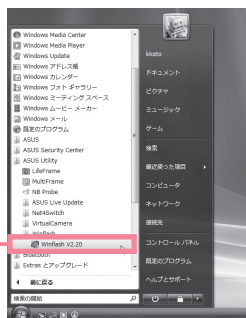


まずはASUSTeKのダウンロードページから、自分の所有している機種用の最新BIOSが出ているか確認します。BIOSは型番ごとに内容が微妙に異なるため、使っている機種の型番を確認してダウンロードしてください。

最新BIOSが入っているZipファイルを解凍すると、中にBIOSイメージファイルが入っています（画面はU1F用）。Winflashを起動するとファイルを開くウィンドウが出ますので、BIOSイメージファイルを指定してください。



スタートメニューを開き〈全てのプログラム〉→〈ASUS Utility〉→〈Winflash〉と開き、Winflashを起動します。



解凍したBIOSファイルを選択

上部の「ROM情報」には今稼働中のBIOSのデータが、「データ情報」は指定したBIOSイメージのデータが表示されます。モデル名が一致していること、指定したBIOSイメージのバージョンの方が新しいことを確認したら一番下の「Flash」ボタンをクリック。あとは自動的に作業が始まり、終了すると再起動となります。なお、一度BIOSを更新してしまうと元のバージョンには戻せないので注意してください。

セキュリティを高める

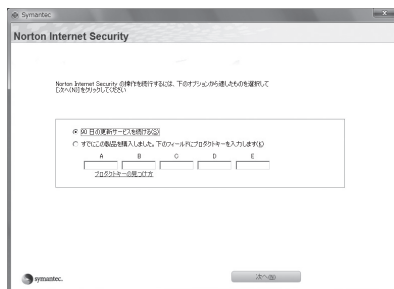
パソコンは、ウイルスをはじめ、スパイウェアやハッカーによる不正侵入、フィッシング詐欺などさまざまな脅威にさらされています。さらに、パソコンを盗まれての個人情報流出も大きな問題として取り上げられています。そこで、ASUS製のノートパソコンにはセキュリティを高めるソフトが数多く用意されています。ここでは、その内容と使い方について解説していきます。



「Norton Internet Security 2007」

Windows Vistaには、スパイウェア対策ソフトが標準搭載となり、従来のOSよりもセキュリティは高まっていますが、ウイルス対策は行われていません。デフォルトの状態では、ネットの脅威に対して完璧に対応できるわけではないのです。そこで、ASUS製のノートパソコンには世界的に有名なセキュリティソフト「Norton Internet Security 2007」が導入されています。非常に機能が多いため、ちょっと戸惑うかもしれませんが、重要な設定項目さえ押さえておけば問題ありません。ここでは設定のポイントを紹介していきます。

初期設定を済ませる



「Norton Internet Security 2007」は、初回起動時に初期設定を行うためのウィザードが起動します。重要なのは、この画面です。付属するのは90日間使用版ですので、「90日の更新サービスを続ける」を選びます。



初期設定が完了すると、最新の状態に更新するためのダウンロードを開始します。〈次へ〉をクリックしてください。これで利用する上で必要な処理は完了となります。

システムの完全スキャンを実行

まず最初に行うべきは、すでにパソコン内にウイルスやスパイウェアなどの脅威が潜んでいるかのチェックすることです。非常に時間がかかるので、パソコンを長時間使わないタイミングで実行してください。



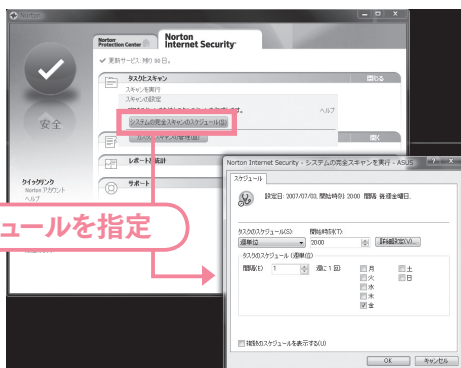
「Norton Internet Security 2007」の設定画面は、タスクトレイのアイコンをダブルクリックすると呼び出せます。注目は左上に「要注意」とビックリマークが出ていることです。そのすぐ下にある「今すぐ解決」ボタンを押すことで問題解決のためのウィンドウが表示されます。



すると「次の項目は確認が必要です」と書かれた画面が表示されます。これは、インスタントメッセージースキャン保護がオフに設定されている、そしてパソコン内にウイルスやスパイウェアがないかチェックが終わっていないという警告です。「次へ」をクリックして、処理を実行してください。

システム全体をスキャンする

なお、デフォルトでは週に一回システムの完全スキャンを実行するよう設定されています。この設定を変更したい場合は、画面上部の「Norton Internet Security」タブをクリックし、「スキャンの設定」→「システムの完全スキャンのスケジュール」を押します。これで、スケジュール設定画面を呼び出せます。

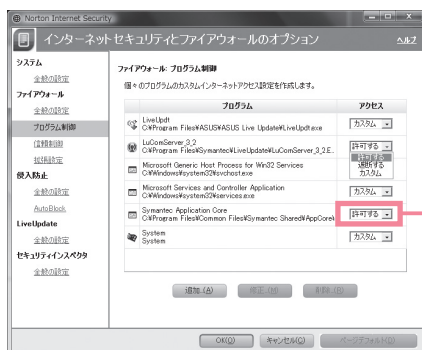


スケジュールを指定

ファイアウォールの設定を確認する

ソフトやシステムの通信を監視して、ハッカーによるパソコンへの不正進入を阻止するのがファイアウォール機能です。しかし、ユーザーによってはソフトの通信を細かく管理したい場合があるはずです。ここでは、その方法について紹介していきます。

ファイアウォールに関する設定は、〈Norton Internet Security〉タブの「設定」欄にある〈インターネットセキュリティとファイアウォールのオプション〉をクリックすることで呼び出せます。

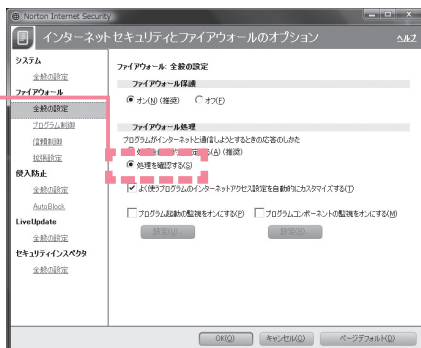


通常、通信が行われたソフトは「プログラム制御」に自動登録され、アクセスの有無も同時に決められます。もし、通信の必要なソフトが「遮断する」設定になっていたら、プルダウンメニューを開いて「許可する」に設定してください。

通信の許可／遮断を指定

チェックを入れる

インストールしたソフトがはじめて通信を行うときに許可／不許可を手動で決めたい場合は、「全般の設定」をクリックし、「ファイアウォール処理」の欄にある「処理を確認する」にチェックをいれてOKを押します。これで自動登録がオフになります。



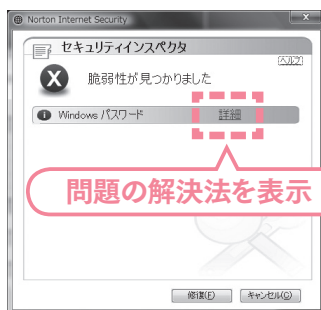
システムに脆弱性がないか確認する

いくらでセキュリティソフトガードしたとしても、ブラウザのセキュリティ設定に問題があったりシステムにスキがあればは意味がありません。そこで用意されているのが、システム設定に問題がないかチェックしてくれる「セキュリティンスペクタ」です。

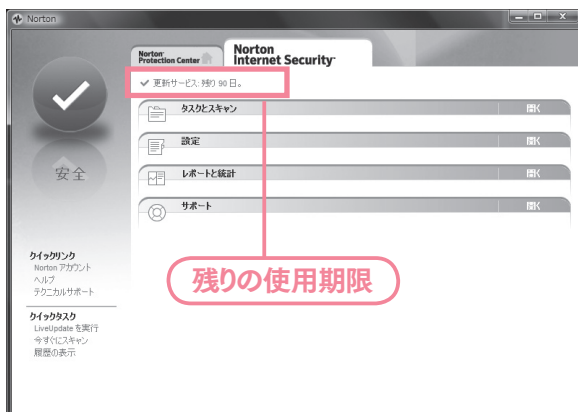


〈Norton Internet Security〉タブの「タスクとスキャン」欄にある「セキュリティンスペクタを実行」で、システムの脆弱性をチェックできます。

システムのセキュリティ設定に問題がある場合は、警告が表示されます。これはウインドウズのログインにパスワードが設定されていないと警告されているところです。「詳細」をクリックすると解決法が表示されます。



使用期限を確認する



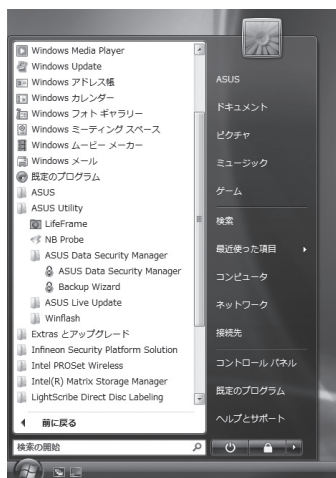
使用期限については〈Norton Internet Security〉タブの一番上にある「更新サービス：残り XX 日」という項目で確認できます。なお、ここをクリックするとシマンテックスストアにアクセスし、パッケージ版やダウンロード版の購入が可能です。継続して本ソフトを使いたい場合に利用してください。



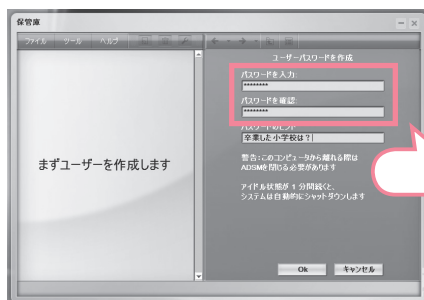
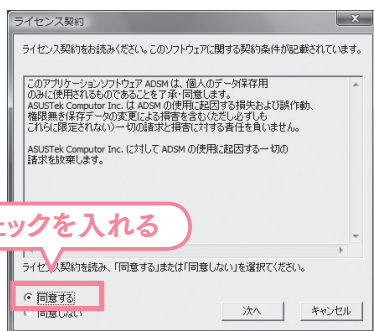
「ASUS Data Security Manager」

会社の機密情報を含む文書ファイルをはじめ、個人的に気に入っている音楽や動画など、他人に見られては困る・見られたくないファイルは誰にでもあるものです。そこで便利なのが ASUS 独自のセキュリティソフト「ASUS Data Security Manager (以下 ADSM)」です。ADSM では、専用の保管庫にドキュメント、音楽、動画と分類されたフォルダにファイルを保存して、パスワードでロックできるほか、ファイルやフォルダを右クリックメニューから素早く暗号化を行えます。パスワードがわからないユーザーは、暗号化したファイルを見ることはできません。大切なファイルを守りたい場合にピッタリのソフトです。

パスワードを登録する



ADSM は、スタートメニューを開いて〈すべてのプログラム〉→〈ASUS Utility〉→〈ASUS Data Security Manager〉→〈ASUS Data Security Manager〉を選択することで起動できます。

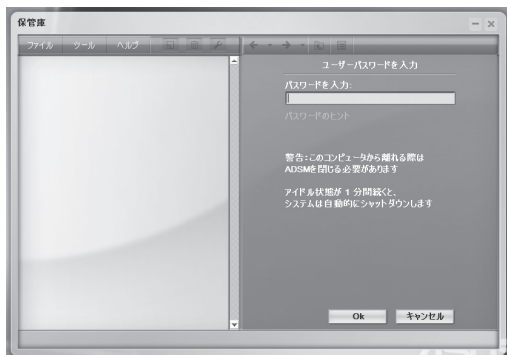


ADSM は初回起動時に初期設定を行うためのウィザードが起動します。ライセンス契約画面では、内容を確認して「同意する」にチェックを入れ、〈次へ〉をクリックしてください。

ADSM は初回起動時に初期設定を行うためのウィザードが起動します。ライセンス契約画面では、内容を確認して「同意する」にチェックを入れ、〈次へ〉をクリックしてください。

保管庫にファイルを登録する

ここでは保管庫にファイルを登録する手順を紹介します。保管庫はパスワードを入力しないと開けないため、どんなファイルが登録されているか他人から見ることができません。

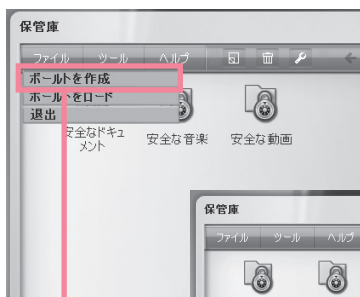


ADSM を起動するとパスワードの入力を求められます。設定したパスワードを入力し、〈OK〉ボタンを押してください。保管庫にアクセスできます。

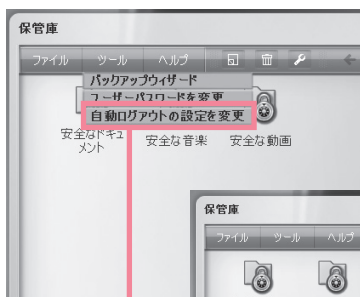
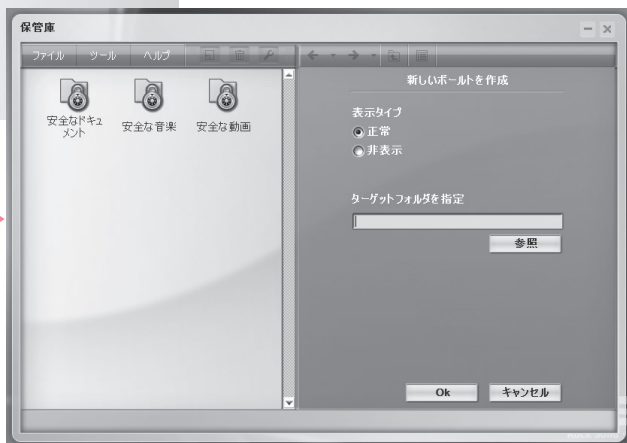
保管庫は「安全なドキュメント」、「安全な音楽」、「安全な動画」と3種類のフォルダが用意されています。本ソフトではこのフォルダのことを「ボールド」と呼びます。これは分類しやすいための存在で、どんなファイルでもそれぞれのボールドに登録が行えます。



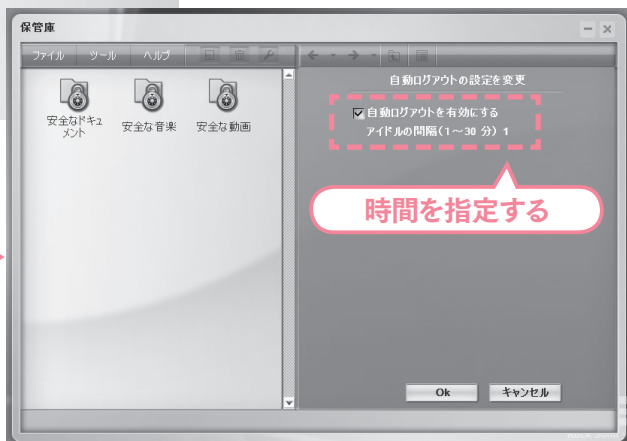
登録したいボールドをダブルクリックすると画面の右側にファイルを登録するためのエリアが表示されます。このエリアにファイルをドラッグ&ドロップすることで登録を行います。



メニューの「ファイル」→「ボールドを作成」で独自のボールドを作成できます。手順は〈参照〉ボタンを押して、ボールドとして使用したいフォルダを指定するだけで簡単です。ほかのボールドと同じように自由にファイル登録を行います。

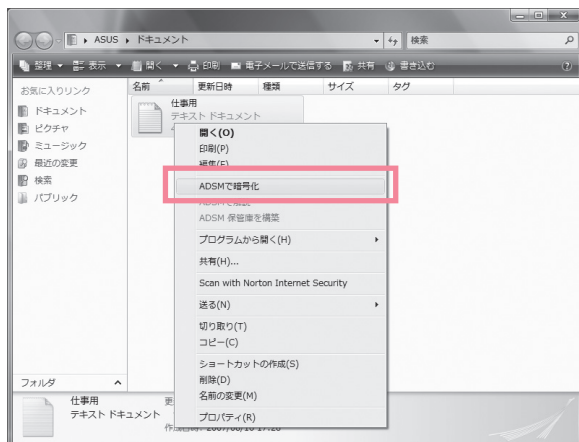


本ソフトは大切なファイルを守るため、一定時間何も操作を行わないと自動的にパスワードロックが行われます。ロックされるまでの時間はメニューの「ツール」→「自動ログアウトの設定を変更」で変更できます。1分から30分の範囲で調整が可能です。



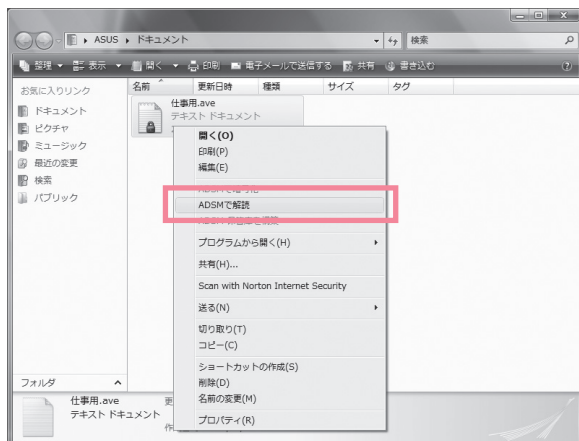
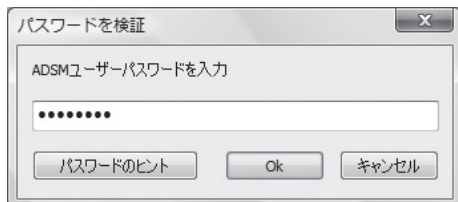
ファイル / フォルダを暗号化する

ADSM では右クリックメニューから手軽にファイル / フォルダの暗号化が行えます。暗号化されたファイル / フォルダは設定したパスワードを入力しない限り、開くことはできません。



暗号化したいファイル / フォルダにマウスカーソルを合わせて右クリックします。開いたメニューから「ADSMで暗号化」を選択します。

パスワードの入力画面が表示されるので、任意の英数字を設定して<OK>ボタンをクリックします。これで暗号化が完了となります。



暗号化を解除する場合は、暗号化したファイル / フォルダを右クリックしてメニューを開き、「ADSMで解読」を選択します。そして設定したパスワードを入力することで暗号化を解除できます。



TPMを管理「Infineon Security Platform」

ASUS製ノートパソコンのうち、指紋センサを搭載しているモデルには「TPM」と呼ばれるセキュリティ機能を強化するチップが搭載されています。このチップにはCPUとは独立して動作する暗号・復号機能を備えており、通常のファイルやドライブの暗号化よりも強力な暗号化が施せるだけでなく、メールの送受信データもリアルタイムで暗号・復号化することが可能です。このTPMを使うための管理ツールが「Infineon Security Platform」です。TPMへのアクセスに必要なパスワード管理を行うための単純なツールですが、使う際には初期化してパスワードを設定するという作業が必要になります。

TPM を使えるように準備する

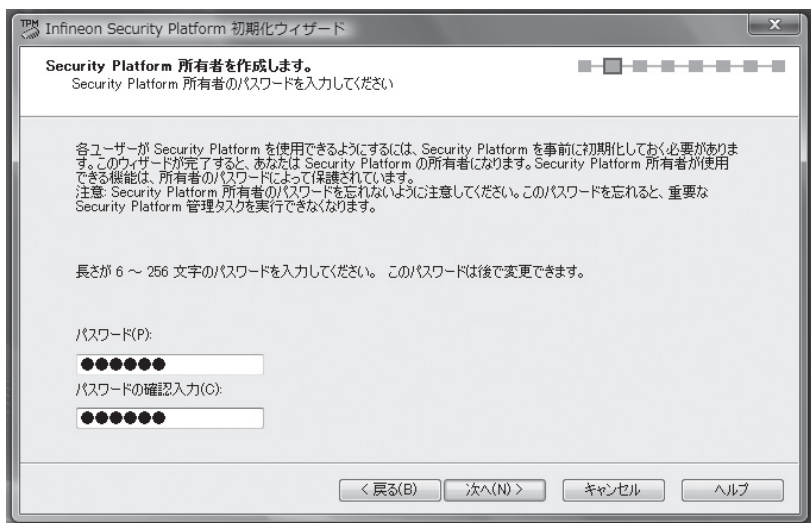
TPMの初期化は、まず TPM の機能を有効化し、その上でパスワードを設定するという手順が必要です。パスワード設定では何回か質問が行われ、パスワードリセットまたは緊急時の復元を行う時に必要な鍵も一緒に作られます。



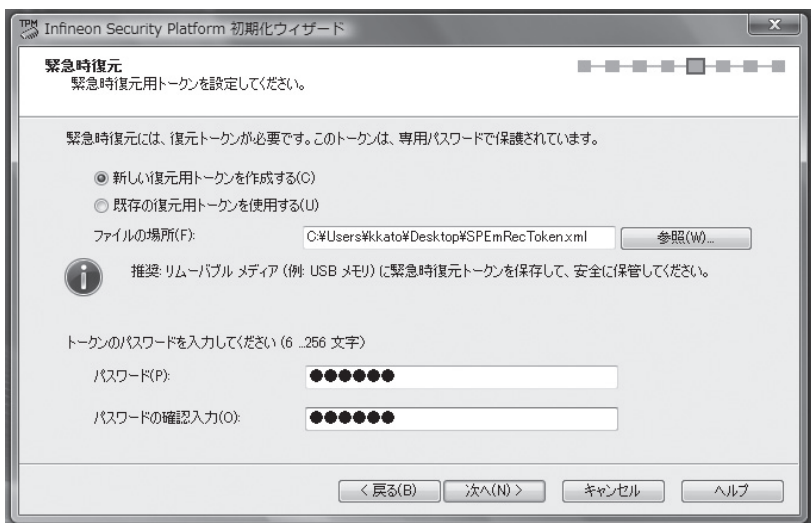
TPM が利用できない場合は、画像のような赤い斜線入りのアイコンがタスクトレイに表示されます。この状態で、そのアイコンを右クリックし（Security Platform の初期化）を選択します。

するとウィザードが起動します。初めてTPMの初期化を試みた場合は〈再起動〉ボタンが出て先に進めます。ここで再起動を行うと、画面が暗転してメッセージがですが、[F11] キーを押せば先に進めます。





Vistaの起動後、再び Security Platformの初期化を選択すると、本格的な設定が開始されます。「所有者を作成」で入力するパスワードがTPMに対する管理者用のパスワードになります。



2 回目に問われるパスワードは何かトラブルがあったときに暗号化されたデータを読み出すための「トークン」を利用するための鍵となります。「ファイルの場所」で指定した場所にファイルが作成されますが、このファイルは絶対に紛失しないよう、USBメモリ等にバックアップしてください。この設定が完了すると、メールの暗号化といった細かいセキュリティ設定を実行可能となります。

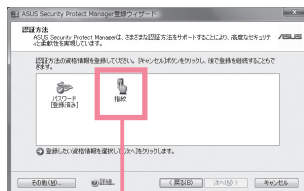
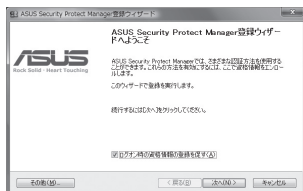


「ASUS Security Protection Manager for Vista」

セキュリティを考える上で、もっとも大事なのが「パスワード」をしっかりとけることです。盗難の確率が高いノートパソコンでは、パスワードは万が一の場合に個人情報を守ってくれる最後の砦です。そこで活用したいのが ASUS 製ノートパソコンに搭載された「指紋センサ」です。自分の指紋を登録しておけば、ログイン時に指紋を読み取らせるだけで認証をパスできます。この指紋認証の仕組みを統括しているのが「ASUS Security Protection Manager for Vista (ASPM)」です。なお、プレインストールの状態が英語版の場合、一度ソフトを削除し、付属のドライバー CD から再導入すると日本語版に置換できます。

指紋を登録してログイン作業を簡単にする

ASPM を導入すると、パソコンの起動直後に右のウィザードが起動します。(次へ) をクリックすると認証方法の選択ができますので、「指紋」をクリックしてください。



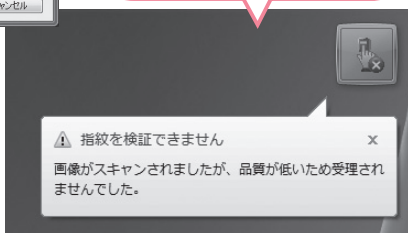
こちらを選択して指紋の登録を開始する



指紋を登録します。登録したい指を手のアイコンよりクリックで選択し(画像では右手人差し指)、指紋センサに指を通して指紋を読み取らせれます。中央に指紋の形が出れば読み取り成功です。4回成功させれば、指紋が登録されます。万が一のことを考えて、最低でも左右の手で1本ずつ指紋を登録してください。

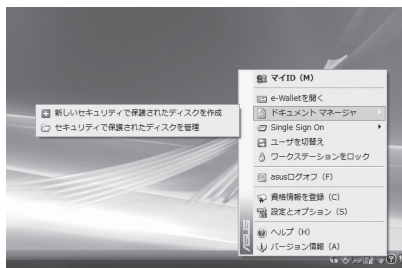
指紋認証の失敗時に表示されるメッセージ

これで指紋登録は終了です。これ以降ログインする時に指紋センサに登録した指紋を読み取らせるだけで自動的にユーザ ID の選択とパスワード入力を行ったことになります。画像のようなアイコンが出る場合は、指の通し方が速すぎて読み取れない、または中途半端に通している(指の第1関節から指先までセンサに通すのがコツです)という意味です。



セキュアディスクで情報漏洩の防止

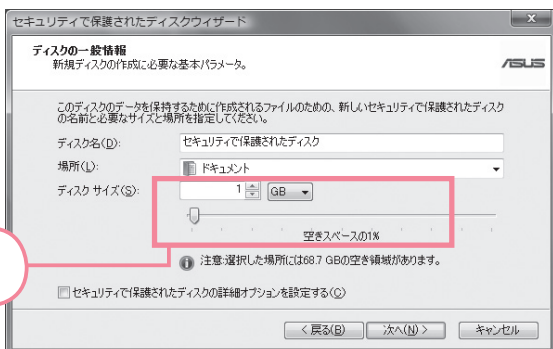
ASPMには「セキュアディスク」と呼ばれる機能があります。一見普通のドライブのように見えますが、他のアカウントからは中身のデータにアクセスできないという特徴を持っています。他人には絶対見せたくない情報の保存に最適です。



タスクトレイにある水色の鍵アイコンを右クリックし、〈ドキュメントマネージャ〉→〈新しいセキュリティで保護されたディスクを作成〉を選択します。

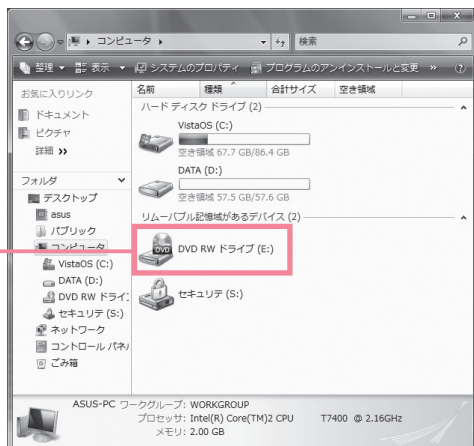
するとウィザードが起動しますが、重要なのはこの画面だけです。セキュアディスク本体を格納する場所と容量を指定します。あまり容量を大きくすると作成に時間がかかるので、1GB程度がいいでしょう。これで〈次へ〉をクリックすると作業終了となります。

セキュアディスクの容量を指定する



この状態でマイコンピュータを開くと作成したセキュアディスクがマウントされています。使い方は普通のドライブと同じですが、この中の情報は暗号化されており、他のユーザーからは読み取ることが不可能になっています。

作成されたセキュアディスク



ネットワークを活用する

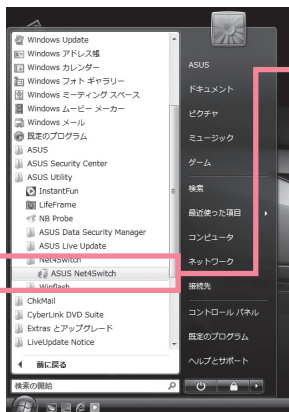
ノートパソコンには、有線LANと無線LANの両方を備えていることが多くなっています。そこで、ASUS製のノートパソコンでは、環境に合わせてネットワーク設定を簡単に切り替えられるソフトや、バッテリーの動作時間を延ばすために無線LANとブルートゥースをワンタッチでオフにできるソフトを備えています。ここからは、それらの使い方を紹介していきます。



ネット設定を簡単切り替え「Net4Switch」

ノートパソコンでは、自宅、会社、街中のホットスポットなど複数のネット接続環境で利用することが珍しくありません。しかし、環境が変わればセキュリティ設定はもちろん、使用するプリンタやアプリケーションも変化します。そこで便利なのが、「Net4Switch」です。このソフトでは、ネット接続環境別に使用するプリンタや起動するアプリケーションなどを手軽に切り替えられます。なお、このソフトは初期状態ではインストールされていません。利用するには付属のドライバCDよりインストールが必要となっています。

現在のネット環境を登録する



タスクトレイのアイコンをクリック



本ソフトを起動するには、スタートメニューから〈全てのプログラム〉→〈ASUS Utility〉→〈Net4Switch〉→〈ASUS Net4Switch〉を選択します。するとタスクトレイにソフトが常駐しますので、アイコンをクリックして「Net4Switchを開始」を選びます。

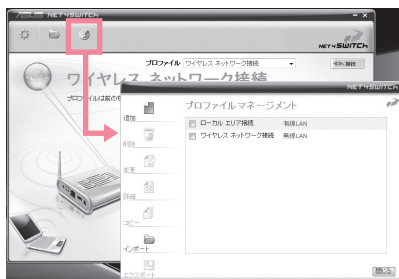


現在のネット関連の設定をそのままプロファイルとして本ソフトに登録したい場合は、右下にある〈現在の設定を保存〉をクリックすれば完了となります。

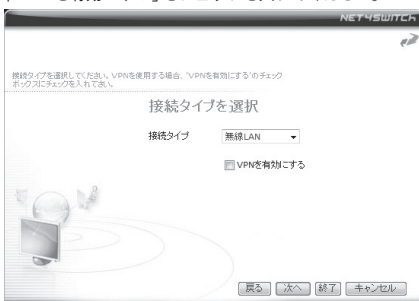
プロフィールを新規作成する

プロフィールの追加では、プロフィールの選択時に起動するアプリケーション、表示するホームページ、ファイアウォールの有無など細かな指定が行えます。会社のプロフィールを選ぶとブラウザが起動し、イントラネットのページを表示といった使い方を実現できます。

独自のプロフィールは、左上にある〈管理〉ボタンをクリックし、〈追加〉ボタンで作成できます。



最初は任意のプロファイル名を入力して〈次へ〉をクリックします。続いて接続タイプの選択となります。内容はADSL／有線LAN／無線LAN／ダイヤルアップの4種類。ここでは無線LANを選択していますが、ダイヤルアップならユーザー名やパスワードの設定が加わる程度とどれも設定の流れに大きな違いはありません。VPN(Virtual Private Network)を利用する場合は、「VPNを有効にする」をチェックを入れてください。

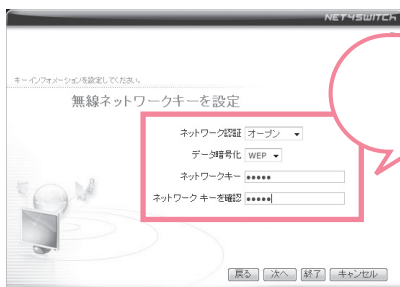


ここではネットワークの接続に利用するデバイスを指定します。基本的にはひとつだけなので、そのまま〈次へ〉を押してください。



接続するアクセスポイントを選択

続いて無線LANのアクセスポイントを選択します。利用するアクセスポイントを選択して〈次へ〉を押します。アクセスポイントの設定をここでしない場合は「自動割り当て」を選んでください。このプロフィールを選んだときに自動でアクセスポイントを検索ようになります。



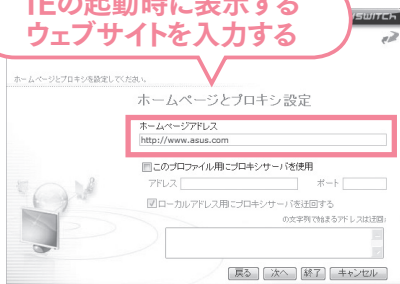
アクセスポイントの
セキュリティに
合わせて設定する

選択したアクセスポイントのセキュリティ設定を入力します。アクセスポイントの設定をあらかじめチェックしておいてください。ここでは WEP のパスワードを入力しています。

そして IP、DNS、WINS の設定となりますが基本的にはデフォルト設定の自動で取得とセットアップしませんが選んでおけば問題ありません。

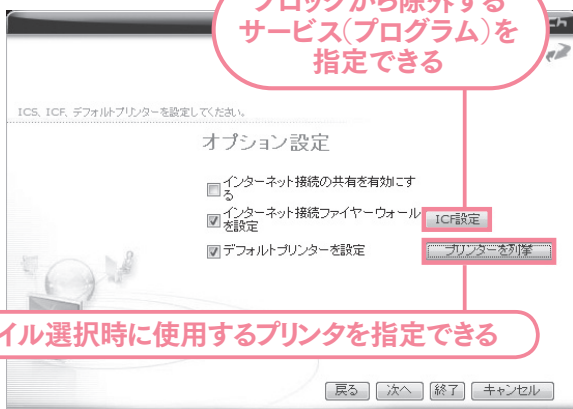


IEの起動時に表示する
ウェブサイトを入力する



インターネットエクスプローラー (以下 IE) の起動時に表示するウェブサイトを設定できます。会社のイントラネットのトップページなど利用する場所にマッチしたサイトを指定してください。プロキシサーバはほとんどの場合使用する必要はありません。

オプション設定では、ファイアウォールやプリンターの指定が行えます。必要に応じてチェックボックスにチェックを入れてください。なお、〈ICF 設定〉ボタンではファイアウォール有効時でも利用できるサービス (Webサーバーや FTP サーバーなど) を決められます。〈プリンターを列挙〉ボタンでは標準で利用するプリンターを指定できます。



ブロックから除外する
サービス(プログラム)を
指定できる

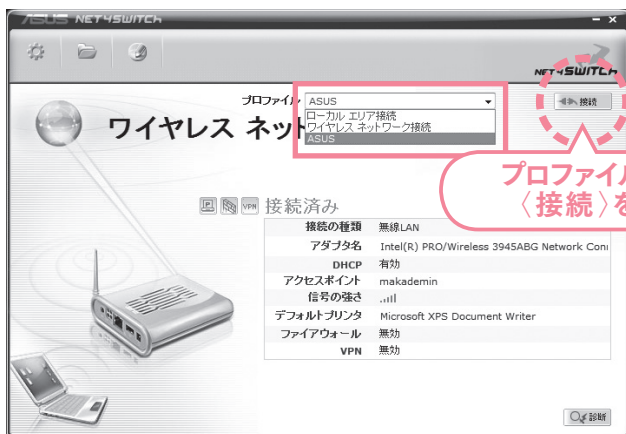
プロファイル選択時に使用するプリンタを指定できる

ここでは、このプロファイルを選んだときに自動で起動するアプリケーションを指定できます。IEを指定してウェブサイトを表示、メーラーを指定してメールを受信などさまざまな使い方ができます。



プログラムは実行ファイル (EXE形式) を直接指定する必要がある

このプロファイルを選択したときに自動で接続するネットワーク上のドライブを指定できます。ネットワークドライブを利用している場合は設定してください。これで設定は完了です。〈保存〉ボタンを押して作成したプロファイルを保存してください。



プロファイルを選んで〈接続〉をクリック

プロファイルは、起動画面の「プロファイル」にあるプルダウンメニューで切り替えられます。目的のプロファイルを選んで〈接続〉ボタンをクリックすれば切り替え完了です。

ネットワークを診断する

本ソフトには、プロファイルの設定に問題がないかチェックできる機能が備わっています。起動画面にある〈診断〉ボタンをクリックし、〈スタート〉ボタンを押すことで設定したウェブサイトの問題なく接続できるか検査します。



オプション設定をチェック

オプション設定は起動画面の左上にある〈設定〉ボタンより呼び出せます。設定しておきたい項目にチェックを入れ、〈OK〉ボタンをクリックします。





無線環境をオン／オフ 「Wireless Console 2」

「Wireless Console 2」は、ASUS製ノートパソコンに内蔵されている無線LANおよびブルートウースのオン・オフを管理するツールです。このツールにより、[Fn]キーと[F2]キーのコンビネーションでオン＆オフの入れ替えを実現しています。特にバッテリー駆動で使用している場合は、無線デバイスの電源は使う時だけオンにするのが長時間動作のポイントです。素早い電源のオン・オフには「Wireless Console 2」が最適なのです。

無線デバイスの電源を個別にオン＆オフ



「Wireless Console 2」は、タスクトレイに青いアイコンとして常駐します。このアイコンの柄は、現在オンになっている無線デバイスの種類を示していることに注目してください。マウスポインタをかざすとオンになっている項目がテキストで表示されます。

タスクトレイ中のアイコンをダブルクリックすると、画面中央やや下あたりに内蔵された無線デバイスのアイコンが出現します。この4つのアイコンをクリックすると、そのデバイスの電源がオンになるという仕組みです。両方オフにしたい場合は、右端のアイコンをクリックしてください。



「[Fn]キーと[F2]キーを押すと設定内容が表示される」

「Wireless Console 2」起動中にキーボードの[Fn]キーと[F2]キーを同時押しすると、押すごとに「無線LAN & ブルートウース両方オン」→「無線LANのみオン」→「ブルートウースのみオン」→「両方オフ」と変化します。

映像や音楽を楽しむ

ASUS製のノートパソコンには、Webカメラ付属モデルであれば、それを活用してビデオチャットを楽しんだり、映像を撮影して楽しめるのはじめ、映像を編集したり、デジカメの撮影画像からスライドショーを作れたり映像、音楽、画像を活用するためのソフトが多数備わっています。ここでは各ソフトの使い方について解説していきます。

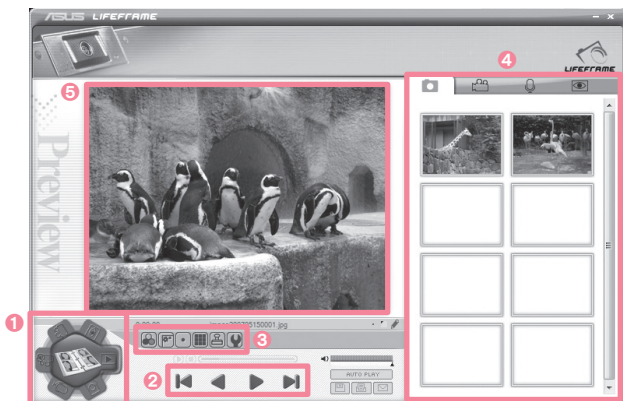


Webカメラで撮影を楽しむ「LifeFrame2」

ASUS製ノートパソコンのうち、USBカメラを備えているモデルでは「LifeFrame2」を使って、動画や静止画の撮影を楽しめます。多彩なエフェクトも用意されており、セピア調や油絵風など風変わりな映像を簡単に作れるのも大きな魅力です。カッパやサンタクロースといったフレームもあり、変装したような映像も撮影できます。動く物体を感知し、自動的に撮影する機能も搭載しており、ちょっとした防犯対策として活用可能と「LifeFrame2」はパソコンライフをグッと盛り上げてくれるソフトです。

「LifeFrame2」の使い方

ここでは「LifeFrame2」の基本的な使い方について解説していきます。左下にあるダイヤルのように配置されたアイコンをクリックすることで撮影モードを切り替え、撮影されたデータは右側のフレームへと保存されます。フレームは、イメージ／ビデオ／オーディオ／モニターとタブ分けされており、撮影データは該当するタブへと自動で保存されます。



- 1 撮影モードの切り替え。
- 2 撮影の開始や停止といったボタン。
- 3 解像度やエフェクトの指定ボタン。
- 4 撮影データが保存されるフレーム。
- 5 Webカメラの映像が表示されるプレビュー画面。

音声を録音する



「オーディオ」モードでは付属のマイク機能を使って音声を録音できます。会議や打ち合わせの内容を残しておきたいときに便利です。

①オーディオ

このアイコンをクリックすることで音声を録音できる「オーディオ」モードに切り替わります。

②オーディオを録音

クリックすると音声の録音が始まります。停止クリックすると録音が停止されます。

③停止

クリックすると録音が停止されます。

④タイマー

設定した秒数が経過してから録音がスタートします。5秒／10秒／オフの3種類から選べます。

⑤WMA クオリティ

録音の音質を指定できます (AVI は音質指定不可)。40Kbps / 64Kbps / 96Kbps / 128Kbps の4種類から選べます。

⑥オーディオファイルタイプ

WMA / AVI の2種類から選べます。

⑦デフォルト

設定を初期状態に戻せます。

⑧詳細設定

撮影に利用するビデオデバイスの選択や映像の輝度、色調など微調整が行える詳細設定を呼び出せます。

Webカメラの映像を録画する



映像の録画機能は音声も収録できる「カムレコーダー」と音声も収録せず映像のみとなる「サイレントカムレコーダー」の2種類があります。

①カムレコーダー

このアイコンをクリックすることで映像と音声を撮影できる「カムレコーダー」モードに切り替わります。

②サイレントカムレコーダー

音声収録をカットした撮影モード。その他のボタン配置などはカムレコーダーモードと同様です。

③ズームイン／ズームリストア／ズームアウト

上のボタンから映像が拡大する「ズームイン」、ズームをオフにする「ズームリストア」、縮小する「ズームアウト」となります。

④ビデオを録画

クリックすると映像の録画を開始します。

⑤停止

クリックすると録画を停止します。

⑥撮影モード

夜景／ポートレート／スローシャッター／カスタムの4種類から選べます。

⑦タイマー

設定した秒数が経過してから録画を開始します。5秒／10秒／オフの3種類から選べます。

⑧解像度

録画時の解像度を指定できます。160 × 120 / 176 × 144 / 320 × 240 / 352 × 288 / 640 × 480 の5種類から選べます。

⑨日付

録画する映像に日付を入れるか決められます。月／日／年／月／日／時間 月／日／オフの4パターンから選べます。

⑩クオリティ

WMV および ASF の画質を指定できます (AVI は画質指定不可)。100Kbps / 256Kbps / 384Kbps / 768Kbps の4種類から選べます。

⑪ビデオファイルタイプ

録画に使用する画像形式を指定できます。ASF / WMV / AVI の3種類から選べます。

⑫輝度

スライドバーをドラッグすることで映像の明るさを調整できます。

⑬コントラスト

スライドバーをドラッグすることで映像のコントラストを調整できます。

⑭デフォルト

設定を初期状態に戻せます。

⑮フィルタ

シアン／イエロー／油絵／セピアなどの特殊効果を映像に加えられます。全部で15種類用意されています。

⑯フレーム

アフロのカツラやサンタクロース、記者会見などユニークなフレームが画像に重ねられます。全部で15種類用意されています。

⑰詳細設定

「音声を録音する」の詳細設定と同様です。

Web カメラで静止画を撮影する



「カメラ」モードでは Web カメラでデジタルカメラのように静止画撮影が可能です。動画撮影と同様に特殊効果などを加えられます。

- ① **カメラ**
このアイコンをクリックすることで静止画を撮影できる「カメラ」モードに切り替わります。
- ② **ズームイン／ズームリストア／ズームアウト**
上のボタンから映像が拡大する「ズームイン」、ズームをオフにする「ズームリストア」、縮小する「ズームアウト」となります。
- ③ **写真を撮る**
クリックすると静止画を撮影します。
- ④ **撮影モード**
夜景／ポートレート／スローシャッター／カスタムの 4 種類から選べます。
- ⑤ **フラッシュ**
オンにすると画面を白く光らせるフラッシュ撮影が可能になります。
- ⑥ **タイマー**
設定した秒数が経過してから録画を開始します。5 秒／10 秒／オフの 3 種類から選べます。
- ⑦ **連続撮影**
設定した枚数連続で撮影が行えます。3 枚／5 枚／12 枚／15 枚／オフの 5 種類から選べます。
- ⑧ **解像度**
録画時の解像度を指定できます。160 × 120／176 × 144／320 × 240／352 × 288／640 × 480／800 × 600／1024 × 768／1280 × 1024 の 8 種類から選べます。
- ⑨ **日付**
撮影する静止画に日付を入れるか決められます。

- 月／日／年／月／日／時間 月／日／オフの 4 パターンから選べます。
- ⑩ **JPG クオリティ**
イメージファイルタイプを「JPG」に指定したときのみ表示される項目。JPEG の画質をグッド／ファイン／ノーマルから選べます。
- ⑪ **イメージファイルタイプ**
撮影する静止画の保存形式を指定できます。BMP／JPG／GIF／PNG／TIFF の 4 種類から選べます。
- ⑫ **輝度**
スライドバーをドラッグすることで映像の明るさを調整できます。
- ⑬ **コントラスト**
スライドバーをドラッグすることで映像のコントラストを調整できます。
- ⑭ **デフォルト**
設定を初期状態に戻せます。
- ⑮ **フィルタ**
シアン／イエロー／油絵／セピアなどの特殊効果を静止画に加えられる。全部で 15 種類用意されています。
- ⑯ **フレーム**
アフロのカツラやサンタクロース、記者会見などユニークなフレームが静止画に重ねられる。全部で 15 種類用意されています。
- ⑰ **詳細設定**
P.27 の詳細設定と同様です。

動く物体を感知して自動撮影



防犯用として役立つのが「モニター」モードです。Web カメラに動く物体が映ると自動的に撮影を実行し、静止画として保存してくれます。

- ① **モニター**
このアイコンをクリックすることで「モニター」モードに切り替わります。
- ② **モニター開始**
クリックすると動く物体を検知して自動的に撮影するモニター機能が有効になります。
- ③ **停止**
クリックするとモニター機能が停止されます。
- ④ **解像度**
撮影時の解像度を指定できます。160 × 120／176 × 144／320 × 240／352 × 288／640 × 480／800 × 600／1024 × 768／1280 × 1024 の 8 種類から選べます。
- ⑤ **感度**
スライドバーをドラッグすることで物体への感度を調整できます。高く設定するほど、わずかな動きで撮影を行います。
- ⑥ **詳細設定**
P.27 の詳細設定と同様です。

撮影した静止画や動画を見る／編集する



撮影した静止画や動画は「プレビュー」モードで再生が可能です。さらに静止画であればマウスで自由に文字や絵を描き込めます。

1 プレビュー

このアイコンをクリックすることで映像と音声再生できる「プレビュー」モードに切り替わります。

2 再生／停止

動画ファイルのみ有効になる機能。

▲印クリックで再生、■印クリックで停止となります。

3 表示する静止画／動画の切り替え

ボタンの配置は左から、最初のアイテム／前のアイテム／次のアイテム／最後のアイテムとなっており、撮影した静止画や動画を切り替えられます。

4 フィルター

シアン／イエロー／油絵／セピアなどの特殊効果を静止画に加えられる。全部で15種類用意されています。

5 フレーム

アフロのカツラやサンタクロース、記者会見などユニークなフレームが静止画に重ねられる。

全部で15種類用意されています。

6 ペンサイズ

マウスを使って画像に書き込める「ペン」機能の太さを定める。1／2／4／8の4種類が用意されています。

7 カラー

ペンの色を決められる。42色が用意されています。

8 スタンプ

王冠やハートマーク、唇などユニークなスタンプ(イラスト)が15種類用意されています。

9 詳細設定

P.27の詳細設定と同様です。

10 ボリューム

マウスをドラッグすることで音声のボリュームを調整できます。

11 スライドショー

撮影した静止画のスライドショーを全画面で表示します。

12 プリント

選択した静止画を印刷します。

13 E-Mail

選択した静止画や動画をメーラーを起動してメールに添付します。



プレビューウィンドウの項目

- 1 「カメラ」モードで撮影した静止画を保存。
- 2 「カムコーダー」および「サイレントカムコーダー」モードで録画した映像を保存。
- 3 「オーディオ」モードで録音した音声を保存。
- 4 「モニター」モードで撮影した静止画を保存。

右クリックでメニューを呼び出せる

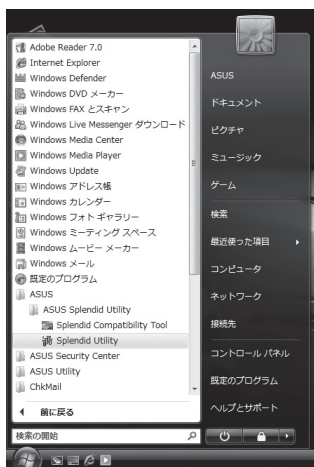
各モードで撮影したデータは右側のフレームに保存されます。撮影データの内容別にタブが用意されており、クリックで切り替えが可能です。また、撮影データを右クリックすることで削除、好きなフォルダへのコピー、メールへの添付、印刷、デスクトップの壁紙に設定などが行えます。



ASUS独自の映像エンジン 「Splendid」

ノートパソコンの液晶ディスプレイは、高輝度、高コントラストが当たり前のテレビに比べて鮮やかな表示は苦手という印象がありますが、ASUS製のノートパソコンでは独自開発された映像エンジン「Splendid」により、その弱点を克服しています。Splendidでは、独自にアルゴリズムにより映像をフレーム単位で解析し、色合いや彩度、暗部の表現をダイナミックに調整して、液晶テレビ並みの発色を実現しました。画質モードも標準で5種類用意されており、オリジナルの色調も作成可能となっているのも魅力です。

画質モードを切り替える

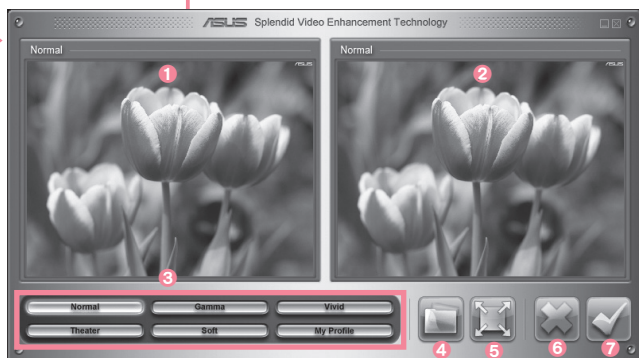


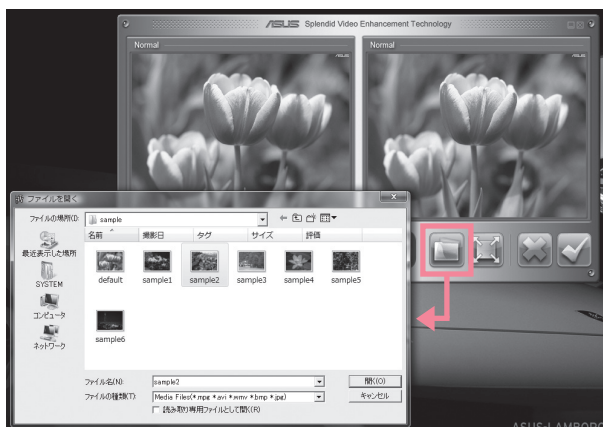
画質モードは[Fn]キーと[C]キーの同時押しで切り替えられます。機種によってはSplendid専用のボタンを搭載し、ワンタッチで画質モードの切り替えが可能です。設定画面を呼び出したい場合は、スタートメニューを開き〈すべてのプログラム〉→〈ASUS〉→〈ASUS Splendid Utility〉→〈Splendid Utility〉を選択することで起動できます。

各項目の意味

- 1 現在適用されている画質モードのプレビュー。
- 2 下段のプリセットより選択した画質モードのプレビュー。
- 3 用意されているプリセット。ノーマル/ガンマ/ビビッド/シアター/ソフト/マイプロフィールの6種類。
- 4 サンプル画像の入れ替え。
- 5 全画面表示へ切り替え。
- 6 設定をキャンセル。
- 7 設定を適用。

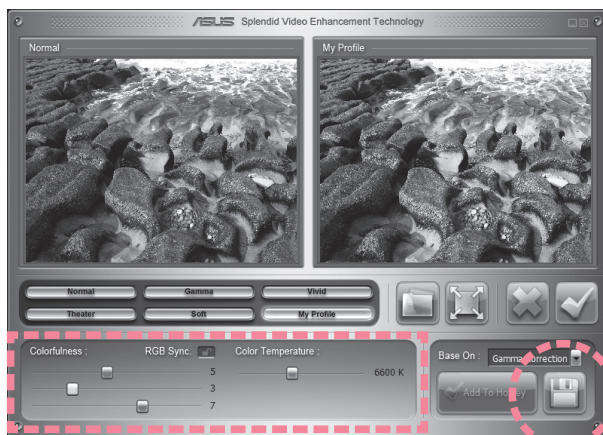
画面左側に現在設定されているSplendidの画質モードを適用したサンプル画像が表示され、右側に下段のプリセットより選択した画質モードを適用した同じサンプル画像が表示されます。そのため、画質モードによる発色のちがいを視覚的に確認が可能です。





フォルダのアイコンが描かれているボタンをクリックすると「ファイルを開く」画面が表示され、サンプル画像の入れ替えが行えます。対応するファイル形式はMPG / AVI / WMV / BMP / JPG の5種類。好きな動画や画像で画質モードのちがいをチェックしたいときに有効です。

選択したファイルで
画質モードの比較が行える



〈My Profile〉ボタンでは色温度や赤／緑／青、そしてそれぞれの強さなどを調整してオリジナルの画質設定を作り出せます。スライダーで各設定を調整でき、右下にあるフロッピーが描かれたアイコンをクリックすることで設定を保存可能です。

① スライダーで色を調整

② クリックで保存



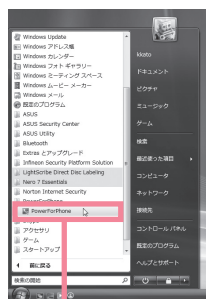
電話帳管理に便利な 「PowerForPhone」

パソコンで通信といえば有線LANやアナログモデムを使ったダイヤルアップが定番です。そのほか、パソコンに電話回線を直結して直接ダイヤルさせる、または「Skype」を使ったインターネット経由の会話という手段もあります。特に Skypeは無料で利用できるボイスチャット対応ソフトだけに、利用している人も多いでしょう。パソコンを電話代わりに使うのもパソコンの利用手段のひとつですが、困るのが「電話帳」の管理です。Skype にしても直接ダイヤルにしても、相手の番号をソフト毎に保存するのは効率がよくありません。この「PowerForPhone」は、Skype および直接ダイヤルの電話帳をまとめるためのソフトです。

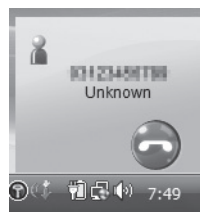
電話回線にPCから直接電話をかける

PowerForPhoneの基本的な使い方は、通常の電話回線をパソコンのモデムポートに接続し、直接電話をかけさせる方法です。パソコンのスピーカーとマイクが受話器の代わりになるため、ハンズフリーフォンのように扱えます。

「PowerForPhone」はOSと共に自動起動するように設定されていますが、Vista 搭載パソコンでは手動で起動する必要があります。スタートメニューを開き〈全てのアプリケーション〉→〈PowerForPhone〉を選択してください。写真のような縦長のウィンドウが表示されます。

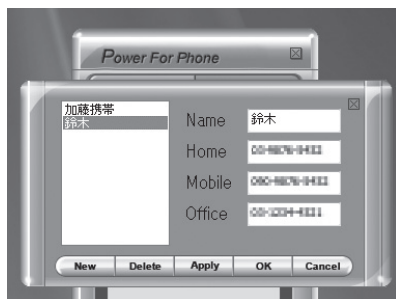


左下の赤いボタンをクリックすると、電話機のプッシュボタンを模したボタンが出現します。マウスでボタンをクリックする、もしくは数字キーで電話番号を入力してください。1文字戻すには「←」を、全部消すには「CLR」をクリックします。



番号を入力して緑の通話ボタンをクリックすると、画面右下スミにこのような画面が出現し、ダイヤルが始まります（この時点で電話回線はパソコンに接続しておきます）。なお、赤いボタンをクリックすると通話が終了となります。

毎回電話番号を入力するのは面倒ですので、よくかける電話番号は PowerForPhone の電話帳に登録してください。右下の赤いボタンをクリックすると、ウィンドウが表示されるので「Name」には名前を、「Home」以下3つの欄には自宅・携帯・勤務先の電話番号を入力（全部入力する必要はありません）。入力を終え、「OK」をクリックすると登録されます。

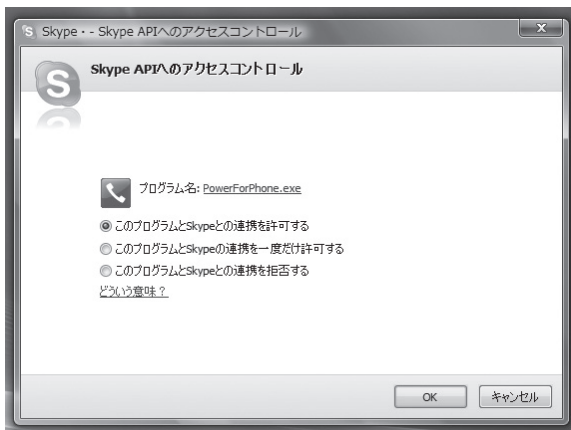


登録された名前をクリックすると、画面のように登録された電話番号がポップアップします。勤務先や携帯等の電話番号を複数登録してある場合は、ポップアップした番号のうち、かけたい番号をクリックしてアイコンをハイライトさせてください。ハイライトさせたら通常通り緑の通話アイコンをクリックすれば、その番号にダイヤルされる仕組みです。

Skypeと連動させる

PowerForPhone には Skype の通話機能と連動できる機能があります。この機能は Skype のバージョンにより利用できない場合がありますので注意してください。なお、Skype は <http://www.skype.com/> から別途ダウンロードして導入する必要があります。

PowerForPhone を起動した状態で Skype を起動させると、初回には次のようなメッセージが出現します。これは Skype との連動機能を使うためには必要なものなので迷わず一番上を選択してください。



オリジナル DVD/CDを作る

ほとんどのノートパソコンに搭載されている書き込み型の DVDドライブ。しかし、ドライブだけあってもそれを活かすソフトがなければ意味がありません。ASUS 製ノートパソコンには、オリジナルの CD/DVD が手軽に作成できるライティングソフトが付属しています。ここでは、そのソフトを使った CD や DVD の作成方法について解説します。



CD/DVD 作成に便利な 「Nero」

オリジナル CD/DVD の作成はインターネットと並ぶ定番のパソコン活用法です。Vista には CD や DVD の書き込み機能が搭載されていますが、マルチセッション／マルチボーダーを使った追記機能は CD-R/RW でしか利用できないなど、機能はシンプルです。そこで CD/DVD への書き込みを行う「ライティングソフト」、すなわち「Nero 7 Essentials (以降 Nero)」の出番となります。データ CD/DVD の作成から音楽 CD の作成まで、書き込みに冠する機能が集約されているため、Vista 標準機能よりも使いやすくなっています。

データをCDやDVDに書き込む

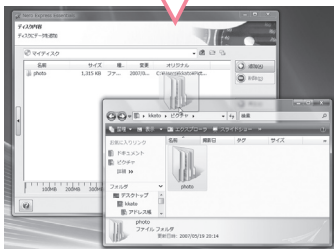
まずは基礎中の基礎、様々なファイルを単純に CD や DVD に書き込む手順をマスターしよう。音楽 CD やビデオ CD は対応ファイルが音楽や動画に限定されるというだけで、基本的にこの手順と大差ないからです。

スタートメニュー→〈すべてのプログラム〉
→〈Nero 7 Essentials〉→〈Nero
StartSmart Essentials〉で Nero を
起動します。デスクトップやクイック
起動バー上にあるアイコンからも起動
可能です。



Nero で可能な作業の内容は、ここに集約されています。一番左上のアイコンをクリックすると、おもな作業の目的の一覧が表示されます。ここでは CD にデータを書き込むための「データ CD の作成」をクリックします。DVD 用は別のアイコンが用意されている点に注意してください。

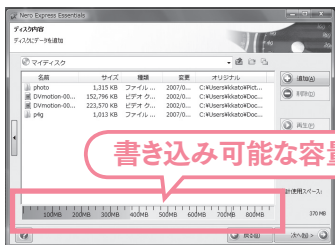
ドラッグ&ドロップで ファイル/フォルダを登録する



開いたウィンドウに、CD/DVDメディアに書き込みたいファイルやフォルダをマウスでドラッグ&ドロップして追加します。何か追加するとウィンドウ下部のバーが右に伸びていきますので、赤いラインを越えないように調整してください。

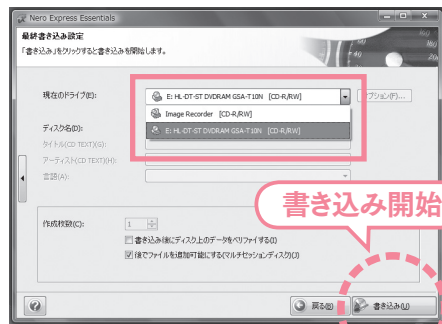


書き込み可能な容量



ファイルを追加し終わったら〈次へ〉をクリック。「現在のドライブ」欄で選択されている項目が「Image Recorder」以外（ドライブの型番）になっていることを確認してください。一番下のチェックボックスをオンにしておくと、そのメディアが一杯になるまで追記できるようになります。

書き込み開始

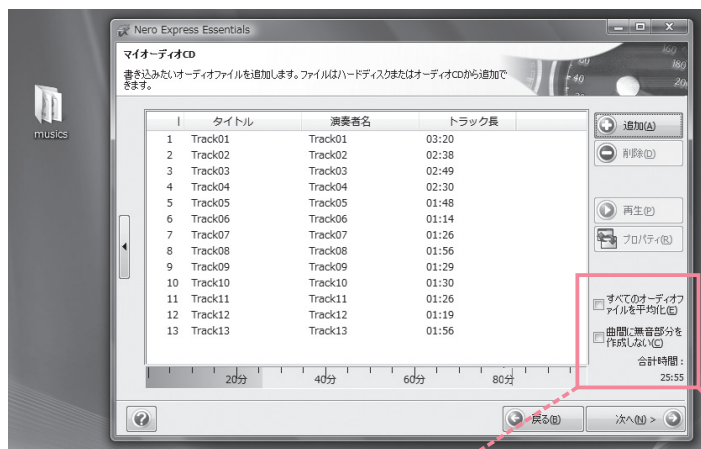


〈書き込み〉ボタンをクリックしたら、ブランク（書き込みを実行していない）メディアをドライブに入れて書き込みの終わりを待ってください。

音楽CDを作成する

音楽ファイルから、オリジナル音楽CDを作るのも記録型ドライブの楽しみ方のひとつです。基本的な手順はデータCDと変わりませんが、音楽CDならではの相違点を中心に解説します。

Neroで作成可能な音楽CDは「オーディオCD」と「ジュークボックスCD/DVD」の2種類です。後者はMP3等を直接再生できるプレイヤーでしか再生できませんが、前者なら普通の音楽CDと同じなので再生するプレイヤーを選びません。



**音量の平均化や
曲間に無音部分を作成しない
オプションを留意**

ミュージックCDを選択した場合は、パソコンに保存したWAV/MP3/WMAファイルやフォルダをドラッグ&ドロップしてトラックに追加します。このまま書き込むと曲間に無音部分が入りますが、右下の「曲間に無音部分を作成しない」にチェックを入れると回避できます。

☐ すべてのオーディオファイルを平均化(E)
☐ 曲間に無音部分を作成しない(C)

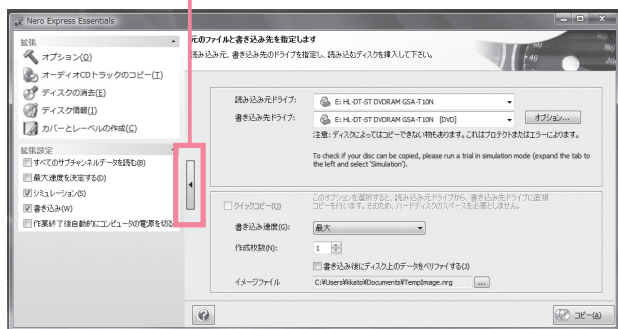
合計時間:
25:55

CDやDVDを複製する

CDやDVDのバックアップ(複製)もNeroの有効な活用方法のひとつです。プロテクトのかかっているCDやDVDの複製はできませんが、オリジナルのCDやDVDを量産したいときに便利です。

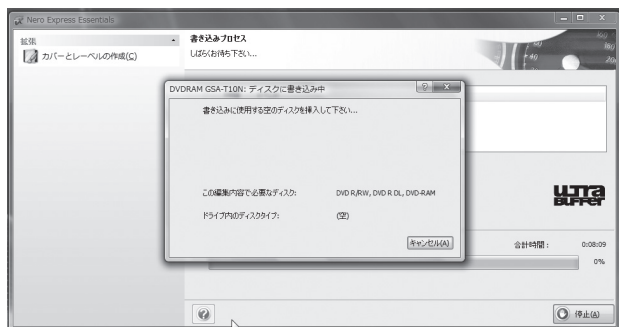
上段右から2番目のアイコン(バックアップ)をクリックし「CDコピー」または「DVDのコピー」を選択します(コピー元の種類により使い分けます)。ここではCDコピーを例に解説していきます。

ここをクリックでメニューが開く



この画面ではまず、読み込み元ドライブと書き込み先ドライブが搭載された光ドライブの順番になっているか確認します。コピーしたいメディアがコピーできるか否かを確認したいときは、ウィンドウ左端にある細長いボタンを押し「シミュレーション」にチェックをいれます。確認したら「コピー」をクリックします。

コピー元メディアの読み込みが終わり次第、画像のようなメッセージが出ます。あとは空白メディアに入れ替えて待つだけです。前画面でシミュレーションモードに設定しておくと、実際に書き込みは行われずコピーできるか否かの検証のみが行われます。



RWメディアを消去する

CD-RW やDVD-RW のような“リライタブル”メディアは、何度もデータを書き込めるのが魅力ですが、一度書き込んだデータを消すには「消去」の作業が必要になります。通常のファイルのようにごみ箱に入れて消すことはできません。

まずは右上端のアイコン(拡張)をクリックし、消去したいメディアにあわせて「CDの消去」または「DVDの消去」をクリックします。



RWメディアの消去方法は「完全消去」と「高速消去」があります。完全消去は非常に時間がかかるため、高速消去を選ぶのが通例です。完全消去は書き込み時にエラーが出てしまった場合に行ってください。

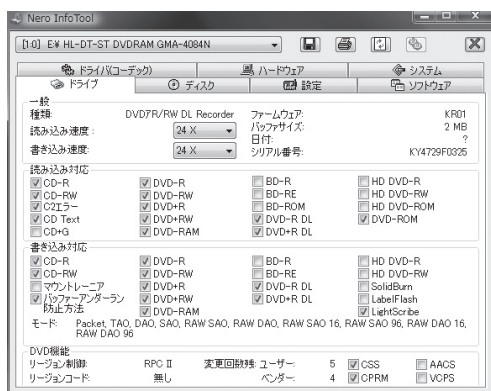


あとはドライブに消去したいメディアを入れ「消去」ボタンをクリックしてしばらく待てば完了となります。消去したメディアはまた普通書き込むことが可能になります。

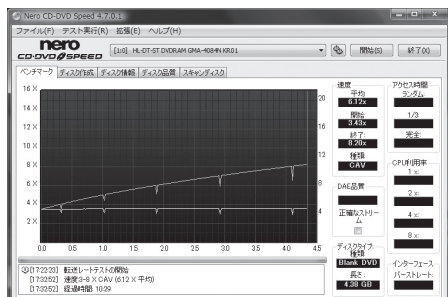
メディアとドライブの情報をチェック

Neroは、データを書き込むだけでなくシステム情報のチェックやドライブの速度テストが行えるユニークなツールが付属しています。ドライブやメディアの品質が気になる人は、一度試してみてください。

まず右上端にある「拡張」アイコンをクリックし、メディアやシステムの情報チェックをしたいときは「システム情報の取得」をドライブの性能を調べたいときは「ドライブのテスト」をクリックします。



「システム情報の取得」をクリックすると「NeroInfo Tool」が起動します。〈ドライブ〉タブでは、ドライブが対応するメディアを確認できます。CD/DVDメディアを挿入していれば、〈ディスク〉タブで対応書き込み速度などがチェック可能です。



「ドライブのテスト」をクリックすると「Nero CD-DVD Speed」が起動します。〈ベンチマーク〉タブでは、ブランクメディアを挿入し〈開始〉ボタンを押せば、書き込みの最低/最高/平均速度をチェックできます。

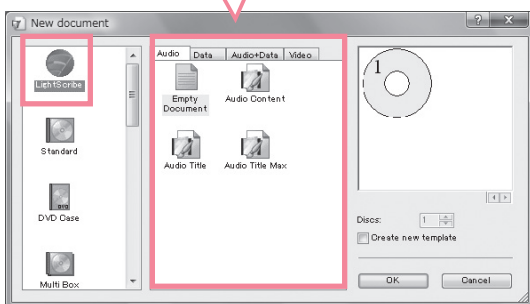
LightScribeラベルの作成

Nero は、光学ドライブのレーザーを利用してメディアのラベル面に直接印刷が行える技術「LightScribe」をサポートしています。ただし、利用にはノートパソコンに搭載されている光学ドライブが「LightScribe」に対応し、「LightScribe」対応 CD/DVD メディアを用意する必要があります。

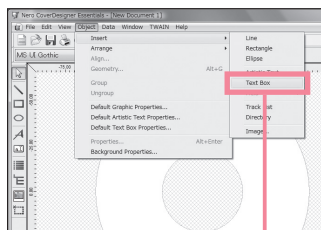


スタートメニュー→〈すべてのプログラム〉
→〈Nero 7 Essentials〉→〈Labels〉
→〈Nero CoverDesigner Essentials〉
でラベル作成ソフトを起動します。

テンプレートを選択

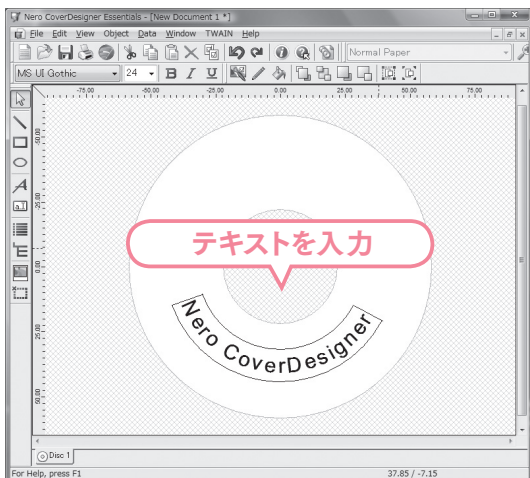


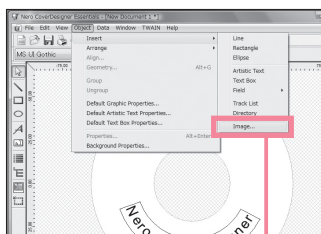
「New Document」画面が表示されますので、「LightScribe」をクリックし、好みのテンプレートを選択します。



テキストを挿入するにはメニューの〈Object〉→〈Insert〉→〈Text Box〉を選択します。そしてテキストを挿入したい位置でマウスをドラッグしてテキストの入力領域を作ります。その領域をダブルクリックすることで自由に文字を入力できます。

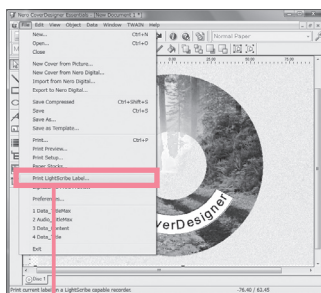
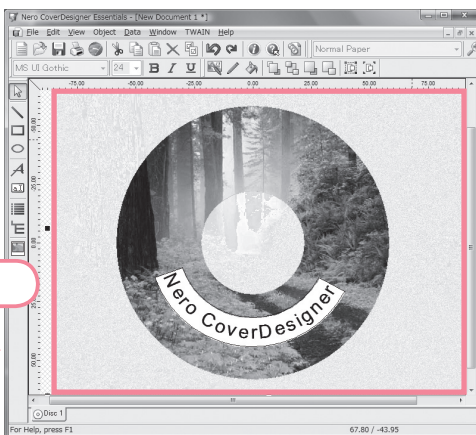
テキストを入力





背景に画像を追加

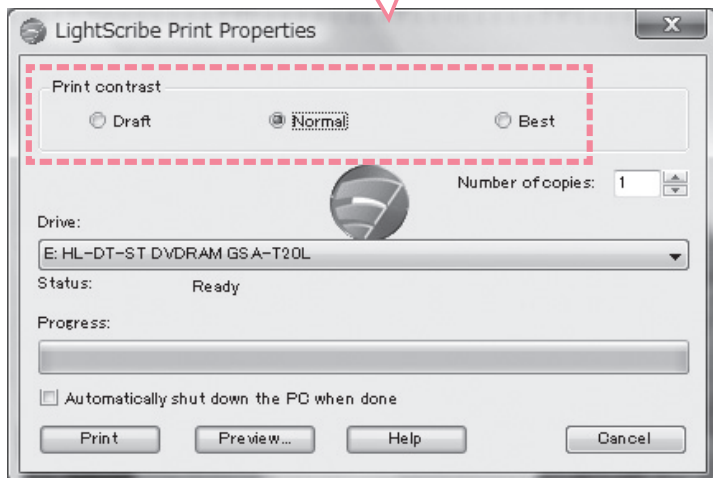
背景を追加する場合は、〈Object〉→〈Insert〉→〈Image...〉を選択します。そして、背景に設定したい画像を選択します。



デザインの完了後は、「LightScribe」対応のCD/DVDメディアを通常とは逆となるラベル面を下に向けた状態で光学ドライブに挿入します。そしてメニューの〈File〉より〈Print LightScribe Label...〉を選択します。

すると濃さを決める画面が表示されます。印刷は薄いが印刷時間は短い「Draft」、濃さと印刷時間のバランスが取れた「Normal」、印刷には時間が必要ですが一番くっきりと印刷される「Best」の3種類が用意されています。選択後は〈Print〉ボタンを押すことで印刷がスタートします。

印刷の濃さを3種類から選べる



Webカメラで遊ぶ

Webカメラ付属モデルでは、撮影が楽しめる「Life Frame2」以外にもユニークなソフトが利用できます。Webカメラの映像をスクリーンセーバーに設定したり、映像に特殊効果を加えてビデオチャットに表示させて相手を驚かせたりと楽しい内容ばかりです。ただ撮影したりと普通の使い方に飽きたら、注目してください。



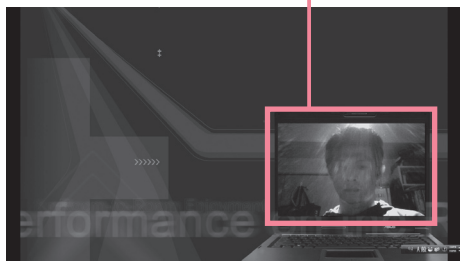
自分の姿をクールに映す 「Camera ScreenSaver」

ASUS製ノートパソコンに搭載されているWebカメラを、スクリーンセーバーにしてしまうのが「Camera ScreenSaver」です。ウィンドウズ標準のスクリーンセーバーでは物足りないと感じたなら使用を検討みてはどうでしょうか。

Webカメラの映像をスクリーンセーバーにする

まずはCamera ScreenSaverをスクリーンセーバーに指定します。デスクトップ上で右クリック→〈個人設定〉→〈スクリーンセーバー〉を選択します。そして、画面のスクリーンセーバーの欄を「ASUS_Camera_ScreenSaver」を指定。待ち時間を好みの時間に設定して「OK」をクリックすれば終了です。

Webカメラの映像が
表示される



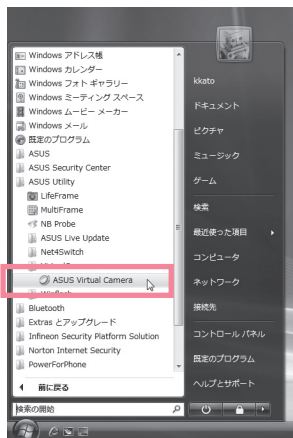
スクリーンセーバーが起動すると、カメラの映像がめ込まれた画面が表示されます。デスクトップ上の「Camera ScreenSaver」アイコンを起動すれば、瞬時にこのモードを表示可能です。アイコンから起動した場合は[Esc]キーを使うと元の画面に戻れます。



映像に特殊効果を追加 「ASUS Virtual Camera」

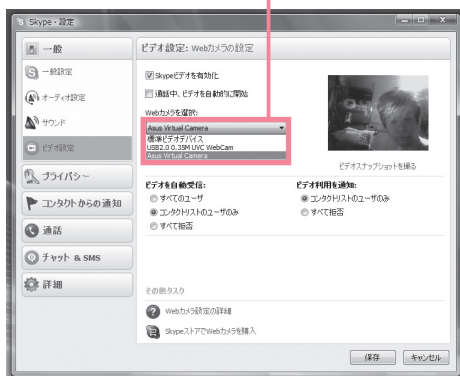
Skype等を利用したビデオチャットは非常に楽しいが、ビデオに映る映像はカメラが見た映像がそのまま流れるため、少々遊び心に欠けると感じるかもしれません。そんな場合に登場するのが「ASUS Virtual Camera」です。このユーティリティはWebカメラの映像をリアルタイムで処理し、エフェクトを施せます。“プリクラ”のような感覚で映像を送信できるのが魅力です。なお、このソフトは初期状態ではインストールされていません。利用するには付属のドライバCDよりインストールが必要なので注意してください。

映像にエフェクトをプラス

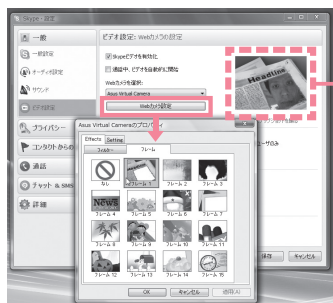


スタートメニューを開き〈すべてのプログラム〉→〈ASUS Utility〉→〈Virtual Camera〉と進み「ASUS Virtual Camera」を選択して起動。タスクトレイにアイコンが出れば準備完了です。

Asus Virtual Camera を選択する



ここでは Skype (別途インストールが必要) を例にとって解説します。Virtual Camera が起動した状態で Skype を起動し〈ツール〉→〈設定〉を選択。左の「ビデオ設定」をクリックし「Webカメラを選択」欄のプルダウンメニューから「Asus Virtual Camera」を選択します。選択したら一度 Skype を終了させて再び起動してください。



プレビュー画面で効果を確認できる

再び Skype のビデオ設定画面に戻り、プルダウンメニューの下にある〈Webカメラ設定〉ボタンをクリックします。〈フィルター〉タブでは画面にリアルタイムで施す特殊効果が〈フレーム〉タブではプリクラ風の飾りが選択できます。プレビュー欄に出る画面が相手のビデオチャット画面にそのまま表示されます。なお、両方の効果を同時に使えないので注意してください。

ノートパソコン専用のサービスセンター

(フリーダイヤル)

0800-123-2787

(通話料お客様負担)

047-390-5630

※携帯電話やPHSなど、フリーダイヤルをご利用できない場合には、
こちらの電話番号におかけください。

受付時間 平日： 9:00 ～ 18:00

土日：10:00 ～ 17:00

※ただし祝祭日、年末年始、夏季休暇中は休業となります。



Rock Solid · Heart Touching